



調理師専門学校の生徒も初体験のウニの殻むき。海の体験メニューは始まったばかり

教育旅行受け入れは、 気を使わずに、 ありのままを見せる。

市長 さて、地域づくり活動の一つとして、ほかの地域との交流というのが上げられます。これは、市内のほかの地域、市外や県外の人との交流という二つの意味があります。出町さん、八幡さんは民泊などで教育旅行生を受け入れられたり、体験メニューを提供することで交流してきたようですが、その効果、苦労話などをお聞かせください。

出町 いわてやまがた農村民泊研究会の発足は7〜8人からでした。食事などの体験メニューはそれぞれの家で考えるもので大変かと思いましたが、新しいものを用意するのではなく、その家庭にあるものをそのまま体験してもらうことがいいと思っています。炉端で炭をおこして豆腐田楽を焼かせたりということですが、

最初は誰でも民泊を受け入れたがらないものですが、徐々に解決すると思います。

八幡 20数年前から大地を守る会の受け入れを行っていました。最初は大変でした。泊めるための部屋を片付けなければ、別の部屋が物でいっぱいになって…。だから、気を使わないことにしたんです。農家の「ありのままの暮らし」を見てもらいたいと思うようになったんです。自分の孫くらいの子どもたちに「もっとここにいたい」と言われると励みになりますよ。

市長 いつの間にか、「ありのままの暮らし」を見せることに価値を感じていったんですね。二子漁業生産部では昨年初めて教育旅行の受け入れを行いました。どうでしたか。

中平 去年の7月17日に、盛岡の調理師専門学校の生徒が体験に来ました。ウニやタコ、ホヤなどを調理しようということだったんですが、調理師学校の生徒なのに生物を調理したことがなかったというのが驚きました。今後こういう機会を設けてほしいという



出町 丈夫 (57、山形)
(いわてやまがた農村民泊研究会)
本年度初開催の「ぐれつとやまがた街道祭」の実行委員として、このまつりを全国に発信したいと意気込む。また、山形町で農村民泊研究会を発足。築100年以上の自宅を「明治の館」と名付け、教育旅行などの受け入れに取り組む。

砂浜を歩いて貝を1つ見つけるだけでも貴重な体験。難しく考えないで。

お礼の手紙もいただき、うれしく思います。ただ、「どうしてウニはくつつくの」というような疑問に説明してあげたくても時間がなくてできないというのが残念でしたね。また、船に乗せる体験ツアーを予定していましたが、海が荒れていて断念しました。天候次第でメニューを変えなければならぬなどの課題もあると思います。民泊については、いずれば受け入れを検討する必要があります。今、今は難しい状況です。

市長 ありがとうございます。小倉さん、大久保さんの地域では教育旅行の受け入れを行っていないわけですが、

今の皆さんの話を聞いて、その可能性はどうでしょうか。

小倉 大川目で受け入れられるかはわかりませんが、大変良いことだと思います。

大久保 夏井でも受け入れられるかどうかわかりませんが、考えてみたいですね。

市長 確かに一つの地域ですべてを受け入れるのは難しい面もあるかもしれませんが、でも、いわてやまがた農村民泊研究会でも、例えば日野沢地区に30軒あるのではなく、山形町全体で30軒あるということです。ですから、大川目町や夏井町、二子全体の取り組みでなくてもよいのですよ。

調理師学校の生徒が、生のウニやホヤを料理したことがないなんて驚きでした。



中平 武雄 (65、長内)
(市漁協二子漁業生産部)
狭い漁場を持つ二子の漁場づくりを担う。高齢化が進む集落にあって、作業の効率化を常に模索。種苗放流などの工夫を凝らした生産活動や二子朝市などを開催し、「消費者との交流」にも力を注ぐ。次なる目標は「販売利益」。

山、里、海の体験交流のまちになるように、これからぜひ海の体験も広げてほしいですね。船に乗るだけ、砂浜を歩くだけ、貝を1つ見つけるだけでも貴重な体験になるので。大川目町でも夏井町でも同じで、体験メニューを難しく考える必要はないと思います。

市長 ありがとうございます。それでは最後に、これからの取り組みで、今考えていることをお話しください。

小倉 大川目町では、ほ場整備が進んでいます。数年後、農村公園を作ることになりませんが、ここに施設を作り、情報を発信したいと思っています。

「ソバの味、忘れないよ」って言われると感じますよ。引き継いでるんだなって。

す。市街地への玄関口ですから、久慈の歴史や観光の発信地にしていきたいですね。

大久保 少子高齢化の今、地域づくりにはどうしても若い力が必要です。なにかをさらにやりたいということではな

く、今までやってきたことを継続することが大事だと思っています。これからは、わたしたちが行ってきた活動に1人でも多くの若い活力を加えていきたいと思っています。それによって、新しい活動にもつながっていくと思います。

中平 通年でアワビやウニを販売できるような体制、ナマコの商品化・定量出荷を目指します。久慈に来たらいつでも海の幸を味わってもらえるようにしたいですね。

八幡 霜畑に伝わる念仏剣舞の伝承を続けたいですね。今は息子の世代が子どもたちに指導していますが、昔ながらのやり方を復元して行っています。わたしなりに後押しを

していきたいです。

出町 これからは、地域と一緒に手を組んで地域づくりを進めていくことが大事。「ぐれつとやまがた街道祭」もその一つだと思います。個々の活動よりも協力することで予測もつかない活動が展開すると思いますし、そういう方向に行くことが良いことだと思います。

市長 ありがとうございます。皆さんの活動全体を伺うことはできませんでしたが、地域づくりの大事な要素が見えました。人が輝かなければ地域は輝きませんし、地域が輝かなければ市全体の輝きもありません。皆さんの地域はそれぞれの地域の人のつながりを大切にして、活力を生み出そうとしています。わたしが考える地域像の先端を走っている皆さん。これからも活動の支援をできるだけ、ほかの地域も、皆さんに負けないよう活発になるように取り組んでいきたいと思っています。これからも、ご活躍を心から祈念、期待しています。



大久保 津江子 (71、夏井)
(夏井川堤の景観を創る会)
同会コスモスグループの会長。コスモスの家にて産直施設を運営。豆腐田楽などを販売する。創る会は、夏井川近隣の田園景観や自然環境の保全、伝統文化の継承が基本目標。子どもたちにソバ作りを指導するなど、交流にも力を注ぐ。